

(議長)

休憩前に引き続き、会議を開会致します。

健康推進課所管の予算並びに関連議案について、補足説明を求めます。

「健康推進課長」。

「健康推進課長」(補足説明)

はい。健康推進課が所管している予算について、ご説明します。

初めに、一般会計について予算資料でご説明します。

10頁をお開き下さい。民生費でございます。79一人親家庭医療給付、11頁84、国民健康保険費特別会計繰出し、99後期高齢者医療広域連合負担金、100後期高齢者医療特別会計繰出し、102国民年金事務、108重度心身障害者医療給付、12頁113子育て応援券交付事業の7事業でございます。102番、国民年金事務につきましては、前年度より57万4千円の減となっております。システム改修が終了したことが理由でございます。他の事業につきましては、前年度同様の事業内容でございますので、説明は割愛させていただきます。

次に、衛生費でございます。同じく12頁、130看護師等育成確保から134地域医療連携システム運営補助、163道南ドクターヘリ運航負担金から155予防事務までの25事業でございます。139子ども医療費助成は、前年度より283万円の減、143番母子保健定期予防接種は、前年度より278万4千円の減となっており、どちらも少子化による対象者の減が理由でございます。135不妊治療費助成でございます。昨年9月定例会において、補正頂きました事業でございます。事業対象者の見込みが難しく、本議会において不要額を減額致しました。31年度におきましては、今年度の実績を加味し、200万5千円を計上させていただきます。費用助成に留まらず、相談体制の構築に努めて参ります。154精神保健自殺対策、自殺予防対策でございます。自殺対策計画につきましては、既存の健康増進計画と一体的に、今年度末までに策定致します。31年度は、正しい知識の普及、啓発等々きずき、適切な相談機関との連携、見守りという相談体制の整備に努めて参ります。その他の事業につきましては、前年度同様の内容でございますので、割愛させていただきます。

以上で、一般会計の説明と致します。

次に、国民健康保険費特別会計の予算についてご説明します。国民健康保険におきましては、道と町が保険者となり、支え合う新たな仕組みとなつての2年目でございます。制度周知の徹底は基より、検診受診率の向上、糖尿病重症化予防の強化など、医療費適正化に向けた事業の推進と医療費等のデータ分析を基に、各種保険事業を実施し、町民の健康意識の底上げに努めて参ります。予算資料1頁をご覧ください。予算の歳入歳出総額は、8億8,667万3千円で、2,772万7千円の減となりました。30、31頁、国民健康保険費特別会計予算構成表をご覧ください。減額になった理由は、非保険者数の減少等による、保険給付費、国民健康保険事業費、納付金の減が理由でございます。新たな取り組みと致しましては、保険事業で、特定検診、がん検診受診率向上対策事業を実施致します。当町の検診受診率は、特定検診でおよそ32%、がん検診は平均約9%と、国保データヘルス計画や特定検診等

実施計画の目標数値から、おおきく離れた状況でございます。更なる受診向上の取り組みとして、受診対象者を分析し、受診者の行動併用の結び付く検診の周知、督促状の発送を委託するものでございまして、335万4千円を計上しています。

最後に、後期高齢者医療特別会計についてご説明いたします。1頁にお戻り下さい。予算の歳入歳出総額は1億2,238万9千円で、362万9千円の増でございます。32頁をご覧下さい。増額になった主な理由でございますが、後期高齢者納付金の内、保険料現年度分が、軽減特例措置の改正に伴い増額になったことでございます。後期高齢者医療につきましては、広域連合と町が事務を分担しておりますが、今後も広域連合と連携し、適切な制度運営が出来るよう努めて参ります。

以上、健康推進課所管の説明を終わります。

(議長)

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

「小野寺議員」。

「小野寺議員」

はい、議長。

3点お聞きします。先に項目。看護師等育成確保対策について、それから、乳児全戸訪問事業っていうのがありますけれども、これに関してお聞きたい。最後に各種の検診についてお聞きしたいと思います。順次、お聞きします。

まず最初ですが、新年度予算で600万を先程申しました看護師等育成確保対策として、継続で計上されております。大変、ご苦労されていると思います。改めて、私、たまたま決算の資料しか分かりませんので、ちょっと数字としては古いかもしれませんが、現状、この対策、新年度の予算試行の上での展望等まずお聞きしたいなと思います。1問目は以上です。

それで、次2問目なんですが、ちょっと私、例規集からというか、ネットから先程も言いましたが、江差町乳児家庭全戸訪問事業実施要綱というのを見てます。私も、恥ずかしいんですが、最近、この事業分かりました。虐待の関係ですね。ああ、こういう事、江差町でもやってたんだと、で、国の方の法律、通達といいますか、それでやってたんだということを改めて分かりました。それで、その前提なんですが、要は、この事業で、乳児に対して親御さん、家庭の育児放棄と言いますか、虐待と言いますが、そういうの未然にも防ぐと、今、大きな全国的に問題になっております。こういう問題にも、未然に防ぐと言う意味合いがあるんだろうなと思うんです。で、改めて、この全戸訪問事業のこの間、分かる範囲で実績教えて頂きたいなと、それで、いわば、何か問題があるとすると、訪問したけれども、会えないとかですね、行ったけれどもしばらく不在だったと、色々きつとあったのかなと思うんですが、なかったのか、そこら辺も、併せて実績の中で教えて頂ければなと思います。

最後、3番目。各種検診ですが、たまたま、昨日の補正予算で、何件か減額の部分がありました。対象者が減ったと言う部分もきつとあったと思うんですが、改めて、新年度の予算という観点で、ちょっとお聞きしたいと思います。で、ちょっと手元には、決算資料で申し

訳ないんですが、決算資料ではかなり詳しく、検診等の数字が出ております。一応、私としてはこれしかないので、これを見ながらお聞きしますが、3つお聞きします。まず、昨日の補正でもあったんですが、赤ちゃんの定期予防接種、減額されて、先程の話しですと、出生児の減少という事なんではないかな。毎月来る町広報見ても、本当に新しく生まれた新生児と言いますか、本当に少ないんだなと思うんですが、この間の動向的なものも含めて、ちょっと課長の見かたといいますか、ちょっと、予防接種の減額等々含めて、ちょっとお聞きしたいと言うのが①です。それから次に、で、各種子どもさんというか、赤ちゃんなどの予防検診を見ますと、本当に保健師さんの日頃の努力もあるのかなと思いますが、本当に90%前後の事業、実施率と言いますか、になってるのかと思うんです。ただ逆に言うと、1割、1割前後の方が受けていないと、これは色々な意味で分析する必要があるのかなと思うんですが、1つは、本当に子どもさんの発育と言うか、の観点、もう1つは、色々な意味で、受けないというのは何か家庭の事情等々、2問目で言いましたけれども、育児放棄と言いますか、そういう観点で、この受けていない予防接種等々、乳児健診等々、受けていない1割前後の赤ちゃんと言いますか、の親御さんの対応は、どのようになっているのかと言うのをお聞きしたいと思います。

で、最後です。我々にも関係する問題なんですが、がん検診。それから特定検診。これは数字的には、本当に毎回見て厳しいなど、率直に思います。どういうふうに、分析されるのか分かりませんが、本当に担当課で苦労されていると思うんですが、まずは、この数字から見ても、ゆるくないと思うんですけれども、まずはこの評価と言いますか、私、古い決算しか見てませんけれども、直近、上がっているか、同じなのか、下がっているか分かりませんが、到達点としての評価、その課題と言いますか、そして、新年度の事業展開、特徴点、こんな風にしてがん検診、特定検診の方を、という部分についてお聞きしたいと思います。

以上です。

(議長)

「健康推進課長」。

「健康推進課長」

まず、1問目。看護師等育成対策に関してで、ございます。今年度、31年度におきましては、継続者5名、新規5名の600万円の予算を計上させて頂きました。現状と致しましては、30年度は新規で、貸付を希望された方は1名、継続で貸付をされている方は3名の4名でございます。来年度、31年度に向けて、相談件数としては、1件、あの現状としては来ておまして、中々、新規の貸付者5名枠が、満度になる事がない状況がここ数年続いております。現在は、ホームページでの周知となっておりますので、周知の方法等も工夫して行きたいかなというふうに考えている所でございます。2つ目の、乳児全戸訪問事業についてでございます。こちらに関しましては、保健師の方で、新生児訪問として、訪問をしておまして、全戸訪問出来ております。30年度に関しましては、現時点で27名の訪問をしておまして、江差町の場合は、里帰り出産の方も、いらっしゃいますので、ちょっとタイ

ミング的に新生児の時期をちょっと過ぎてしまう方もいらっしゃるんですが、電話をして、予約というか、予定を立てて訪問をしているという事で、今の所、訪問拒否や不在という所はありません。3問目の各種検診についてでございます。3問目の1つ目、定期予防接種でございますが、出生児数の減少が原因かという事ですが、正にそのとおりでございます。先程も言った様に出生が27、30件未満、妊娠届もそのくらいと言う事で、どんどんと、少子化が進んでいるという状況がございます。それによる減少と、あと平成28年度から北海道でも日本脳炎の予防接種が出来るようになりまして、その定期対象にならない子を救うための特例措置というのがあったんですが、その特例措置の、ちょっと接種率が低いので、特例処置の対象者を少し、受けやすい状況を拡大して、作ったんですけども、実際には見込んでいたよりも、予防接種の接種率が低かったために、不用額が130万程出てしまったという所でございます。それから、2つ目の検診定期予防接種で、受けていない1割の方たちの動向、対策はどうなっているのかという事でございますが、検診に関しましては、受診されなかった方に電話等で連絡をしまして、別日の検診、例えば、赤ちゃんの検診だったんだけど1歳半の検診の時にとかいう形で別日の検診の時にこれないだろうかという事で、まず照会をし、それでも難しいという事であれば、訪問や保健センターへの来庁相談と言う事で対応をしております。予防接種につきましては、検診や相談で見た時に、母子手帳を確認しながら、未接種の予防接種をお母さんと一緒に確認をした上で、接種のスケジュールを立てて、進めているという状況で、議員、ご心配されてる状況が把握されていないというケースは今の所ございません。それと3番目、がん検診特定検診に関してでございます。こちらは、先程も説明でも申しましたが、特定検診の実施計画や、データヘルス計画で立てている目標、受診率の目標数値よりも、結構解離があるということは分かっておりまして、対策として今まで保健推進員と保健師と一緒に訪問をして、受診勧奨等をしておりました。受診勧奨した年は上がるんです。この地域。上がるんですが、中々継続受診に繋がらないという課題が1つあるという事と、検診を受けている方の年齢構成を見ますと、やはり働き盛りの方達の受診が非常に少ないという状況があります。どちらの計画の中でも受けやすい検診の対策、検診の体制を整備をしようという事や、推進員との連携強化を進めて行こうという事で、している所ありますが、31年度におきましては、新たな試みとして、検診の受診率を向上させるための対策事業というのを委託する事を予定しております。こちらは、過去の5年間の未受診者、もしくは受診した方、全てのデータをいわゆるAIの大きいデータとぶつけながら、それぞれの方たちの、何でしょうか、傾向に合わせた勧奨の通知文をして行くという形のものでございまして、初めてやる事ですので、どの程度受診率に、受診率向上に影響が出るのかというのは、ちょっと今の所未知数であります。他の使っている市町村では、受診率が上がっているというふう聞いておりますので、少し期待をしている所でございます。

(議長)

「小野寺議員」。

「小野寺議員」

大体分かりました。再質問。最後のがん検診だけでお願いしたいと思いますが。課長、えーと、ちょっと中々手元に詳しい数字ちょっと分からなくて、がん検診、役場の前に検診車来たりとかですね、それから後、それぞれ地域で受けたりとか、あと、人によっては医療機関と言う事もあるんでしょうか。ね、色々ありますよね。それと、先程言った一定の年齢の部分ですから、縦で切るか、横で切るか、色々こう分類した部分で、先程の対策と言う事もあるんですけども、その、どこの部分に力を対策取ったらいいのか、その、えーと、例えば、前、南が丘でもやってみましたっけ。あの時、ちょっと覗いた時、意外と少ないなとかって思ったんですけども、そういう、1つ1つの対応で、分かりませんよ。例えば、申し訳ない。例えばですけども、地域で中々、南が丘ふれあいセンターでやりますよと言っても、そこに行けないだとか、という人もいるかもしれませんよね。あの、体弱くて行けないだとか、という部分、私、ちょっと昨日から、何となくシリーズでしゃべっているんですけど、そういういわば、移動にもちょっと困難性を抱えている方については、多少ピックアップして、送り向いもするだとか、例えばですよ。それからもう1つ。先程、若い方、結局仕事しているからという側面ですよ。仕事、公務員だとか一定の部分は、休み取ってとか、いう分、公務員の場合は、きちっと共済とか何かあるんでしょうけれども。もしくは、休み取れるんでしょうけれども、中々、民間の部分でいうと、休みが取れないというか、そこも大きいだろうと思うんですね。で、私、前にある地域は、職場と言うか、会社と言いますか、の所に働き掛けて、そこで、それはなんとなるか、事業所として会社として、きちっとそういう時間を取ってもらったのかちょっと良く分かりませんが、そこで、そういうがん検診の時間も確保してもらおうと。場合によっては、一定の休みも確保するだとか、何かこう、ピンポイントと言いますか、そこも分析しながら、力を少し傾注するという様な事でもしない限りは、中々、がん検診率って、上がらないのかという気してるんです。で、もう1つ。最後になりますが、一定程度、受診が遅れて結果的にはがんの治療を受けてるという方も、これはこれできっとデータ的には分かるのかもしれませんが、私、やはり、しっかりとこのがんの早期発見の必要性という事を、もっともっと、やっているのは十分に分かります。十分に分かりますが、がんの早期発見という事ですね、もっとやらないと、まだ若い人はがんについて、何かまだまだよそ事というか、自分の身とは思わない。多分、50代でも、もしかしたら、60代でもまだ、思っていないのかも知れない。私も実はそんなに思っていなかった時もあったんですけども、そういう点では、がんの早期発見の必要性という事も、色んな面でやって行かなかったら、中々、動機付けにならないのかという気するんです。その点についても、もしかしたら、色々、町広報等にあったのかも知れませんが、その辺についてもちょっとお聞きしたいと思います。

(議長)

はい。「健康推進課長」。

「健康推進課長」

小野寺議員の方から、がん検診の受診率を上げるための対策の、アドバイスというか、アイデアを頂きましてありがとうございます。受診会場迄の送迎うんぬんという事に関しましても、関しましては、実際にそういう方がいらっしゃるのかどうかという所も私たちも把握していませんので、その辺、こうちょっと、アンケートの様な形がいいのか、他にちょっと知っている方、推進等々の力を借りながら、そういう方達いるのかどうかというのもちよっと調べて見るのも1つ方法かなと思いつつ聞いておりました。後、職域への働き掛けという点に関しましては、多分、うちの方でも100%職域の方の方への特定検診の受診の状況というのも押えている状況ではないですし、色んな心の健康の部分等も含めながら、もしかしたらそういう大きな所、建設協会さんとか、所で情報収集等々の事も必要なのかなというふうには聞きながら思っております。早期発見の部分に関しましては、議員おっしゃるとおり、予防という意味では、やはりまず知識の普及啓発という所に力を今後、今以上に努力したいかなというふうの思っております。

(議長)

いいですか。はい。

他に質疑希望ありませんので、健康推進課所管の予算並びに関連議案について、質疑を終わります。

説明員入れ替えのため、暫時休憩致します。